

回文かるた

ぬし さんか
さんか
ふし

ぬ

ぬ



first message from ISOS

*回文=上から読んでも下から読んでも同音の文章。

ぬ

ぬし 主不参加 監査部死ぬ

主（トップ）がISOに積極的なコミットをしない限り、個々の内部監査員がいくらISOを有効活用しようと頑張っても限界があります。そこで、ISOに関心のないトップが経営する組織の担当者は、どのようにしてトップにやる気を起こさせるか、いろいろ思案します。同業でやる気のある社長に自社の社長を説得してもらう、外部のコンサルタントに発破をかけてもらう、社長に一目置かれている役員から進言してもらう、などなど。一般的な処方箋はありません。トップによって経営観は違いますし、会社の経営状況や人間関係によって対応方法は異なります。ですが、あらゆる手を尽くしても、トップがISOに関心を示さない場合、あなたは どうしますか？

あなたの思い入れが中途半端なものでないなら、あなた自身が経営者となって、マネジメントを実践してみたいかがでしょうか？ ただし、ISOに関心を示さない社長に対して「うちのトップはアホだから」という前に、その「アホ」を自分は超えているかどうかを確認しておきましょう。案外、「アホ」呼ばわりされている社長は、会社が生き残って発展するための課題を重要度の高い順にこなしているかもしれません。あるいはマーケットに対しても、見えたままの表の現象をそのまま信じるのではなくて、その現象を動かしている因果律、つまりプロセスをきちんと見ているかもしれません。さらに、そのようなトップが経営する組織には、すでにISOマネジメントシステム規格が要求する機能が内在しているかもしれません。

そうではなくて、あなたの組織のトップが正真正銘の「アホ」なら、自分で経営をやってみることをおすすめします。何も突拍子もないことを言っているわけではありません。審査機関の世界では、すでにそういう新しい世代が登場し、活躍し始めています。